

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

# 無事燈

2008年3月  
No.129



大谷大学同窓会

## 「師教の恩致」

廣瀬 杲先生にインタビュー



— 本学において、三十二年間にわたり教鞭をおとりいただきました廣瀬杲先生に、尋源館にお越しいただき、お話を伺いました。

— 先生と大谷大学との関わりについてお聞かせください。

私と大谷大学の関わりというのは二度あるように思います。

大谷大学と最初に関係を持たせていただいたのは昭和十七年です。旧制の予科に入ったことでした。予科は、あの時代にあつて自由を享受することのできた、言い換えれば、大

学人としての誇りを保持することができるような、あの時代希有の場でした。大庭米次郎先生、中島万次郎先生、外村完二先生といったドイツ語関係の先生方に、クラス担任にもなつていただきました。こういった非常に教養の高い先生方が、その時代の若者たちを精神的にうまくリードしてくださつたように思います。暗黒のような戦時下の時代にあつて、自由を謳歌できる良い時をいただいた感じでした。

ところが、戦争の影響で、予科が制度的にどんどん縮小されていきました。その間の殆どは、学徒勤労動員で、勉強できる状況ではありませんでした。そして、二年の軍隊、それに続く四年間のシベリア抑留、という六年間が私の学生生活を、完全に中断したような形になっていきます。この六年間についてはいまお話しするのは困難ですが、人間の限界のようなものを知らされたんです。その中で、それまで関わりのあつたすべてのものが変わつてしまいました

た。そのような状態の中で、文学部の一回生に入れていただきましたが、その架け橋となつてくださった先生がいらつしゃいます。昭和二十五年に大学へ帰れるようになった頃、私自身、もう生き方が分からなくなつていました。そんな時に福井の公開講演会で金子大栄先生がお話しになつていたんです。分からないままお話を聞いて、分からないまま控え室をお訪ねしたんです。その時に、「まあ、難しく考えないで、京都まで来て一、二年遊ぶ気持ちで出てきたらどうかね」というお言葉をいただきました。これが私が大谷大学の学部という場所で真宗学を勉強する方向に目を向けさせてくださったきっかけでした。

また大学に入ってから、予科の頃の印象が色濃くありましたので、大庭先生の講義に出してみました。そして、大庭先生が「あつ、君、廣瀬君だね。僕、憶えているよ。よく帰つてきたね」と言つてくださったんです。それを聞いたときには本当に感動いたしました。大谷大学という大学は、いつでも待つていてくれる実感の持てる大学でないといけないのではないかと思ひました。人間への根っこでの信頼というものがこの大学の命になるんじゃないでしょうか。

— 大学に入りますと、学校の制度として指導教授を決めなくてはなりません。その頃の真宗学の指導教授には、名畑應順先生、稲葉秀賢先生おおき、正親含英先生の三人がいらつしゃいました。その中で正親先生のお話というのは、お話を聞いているときにはそうでもないのですが、下宿に帰つて寝床で目をつむつておりますと心の中に残つて出てくるのです。びつくりしました。意識がはつきりしているときには残らなくとも、意識が消えていくような状況では生き返つてくるような言葉があるんだなあと。私の本能が領いたということだろうと思います。それで、正親先生に指導教授をお願いしました。

— 先生のご研究についてお聞かせください。

やはり、軍隊・シベリアということを経験した人間は、本当にボロボロになつて再生不可能というかたちで帰つてきています。それを再生せしめてくれるような何かがない限り、勉強といつてもなかなかできません。勉強していくにはテーマがいります。その頃は、曇鸞大師の教学というものが時代の中枢にあつたと言つても良いと思います。それに対して、私は何かもう一つ納得しきれないものがありました。それで私はずっと善

導師を勉強させてもらっています。善導大師をやっておりますと、宿業という課題が鮮明になってくるんです。〈宿業〉というのが私の一貫するテーマです。いまでもそれを追っています。最初に出版してもらいました書物の題名が『宿業と大悲』。それから後に形を変えて『真宗救済論』というものを出版しましたが、これにも「宿業と大悲」というサブタイトルをつけました。

『宿業と大悲』を出したときに、友人たちが祝賀会を開いてくれました。その中で曾我量深先生がお話ししてくださいました。「廣瀬さんは、別のことを考えなくても、この〈宿業と大悲〉だけを、見つめて勉強していきなさい。それ以外の余分なことは考えなくていい。」その一言が私の方向を決定してくださいました。

ただ、私は「宿業」とか「善導」とか申しましたけど、それを研究対象として学ぼうと思ったことはありませんし、そういう関心が全く湧いてこない人間なんです。正親先生からあれやこれやと教えられたわけではなく、先生の存在全体が促しておられるという感じは持っていました。ですから、「正親先生の顔を見たら〈宿業〉が出てきた」という冗談を言っただけ先生を困らせたことがあります。

した。「大学というところはもって厳密に」とおっしゃるなら、私は大学の学問にそぐいません。では一体何をやって来たのかと言いますと、それぞれの場所を通して、どこかで自分探しをやっているんです。自分探しの八十年なんですね。

先生は教員となられて、後に文学部長から学長というお立場にもなりましたが、学生とはどのようなお気持ちで関わってこられましたか。

立場が変わるといって感覚はないんです。同じ方向を向いて歩いている内に、横に若い人がいたという感じはあります。一応、教員となったわけですが、私の場合、そういうことが自分の中で変わっていくきっかけとなつたというのは、あまりないです。ずっと一貫してただ尋ねていく道すがら、ことが決まっていっていった感じはあります。

ただ、そんな私が一つの授業をもつたならば、その授業がどちらを向いていたかということとは自分に問わなくてはならないと思います。本当に人間の学問なのか、本当に人間の教育なのか、ということですね。それは清沢満之先生の開学の言葉を課題にし続けているかどうかということでもあると思います。そして、これは人間普遍の課題でもあります。

私立大学連盟の学長会議で、かつて私は「大谷大学は、いつでも日本の私立大学の良心でありたいと願っています」と言い切ったことがあります。人間教育の場と言われるものはたくさんありますが、問いを持ちつつ自分を確かめる場がどのくらいあるだろうかと思えると、実際問題、しんどいと思います。清沢先生の開学のお言葉を、今日的に普遍性を持った課題として担っていくということが、大谷大学のいのちだと思えます。

廣瀬 泉先生へのコメント



みき あきまる  
1993年3月大学院博士後期  
課程真宗学専攻(満期退学)

問いを持ち考えることの自由さと楽しさ 大谷大学講師(真宗学) 三木彰円

真宗学を学びだした頃から先生の主宰される聞光学舎に足を運ぶようになり、その後修士ゼミで学んで以来、多くのことを教えていただいています。

その中でも私が大切にしているのは、問いを持つことの自由さと、考えることの楽しさを先生から教えていただいたこと。問の中でも私が大切にしているのは、問いを持つことの自由さと、考えることの楽しさを先生から教えていただいたこと。問の中でも私が大切にしているのは、問いを持つことの自由さと、考えることの楽しさを先生から教えていただいたこと。問の中でも私が大切にしているのは、問いを持つことの自由さと、考えることの楽しさを先生から教えていただいたこと。

真宗学に向き合う先生のお姿から学びえたそのことが、私にとっては何よりも大きな励みになっています。

〔略歴〕

- 一九二四年 京都市に生まれる
- 一九五〇年 大谷大学文学部卒業
- 一九五九年 大谷大学研究科修了
- 一九六一年 大谷大学助教授
- 一九六五年 大谷大学教授
- 一九七八年 大谷大学学監・文学部長
- 一九八〇年 大谷大学退職
- 一九九〇年 大谷大学名誉教授
- 現在 大谷大学名誉教授

〔著書〕

- 『真宗救済論』
- 『観経疏に学ぶ』
- 『歎異抄の諸問題』
- 『歎異抄講話(全四巻)』
- 『親鸞の宿業観』
- 『観経四帖疏講義(全九巻)』
- ほか著書・論文多数



# 本部報告

## 二〇〇七年度前期卒業式並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会を挙げる

昨年九月二十八日(金)、二〇〇七年度前期卒業証書・学位記授与式が講堂において挙行されました。来賓、父母兄弟、教職員をはじめ関係者の臨席のもと課程博士一名、修士課程一名に学位記が授与され、文学部三十四名、短期大学部五名に卒業証書・学位記が授与されました。引き続き木村宣彰学長より告辞、真宗大谷学園常務理事の里雄康意氏より祝辞が述べられました。

式典終了後、多目的ホールにおい

## 第十二回 ホームカミングデー開催報告

学園祭期間中の十一月十日(土)に同窓会主催による、恒例の「ホームカミングデー」を開催いたしました。退職された先生や専任教員のご出席のもと、全国より約一六〇名の同窓生やご家族などの参加がありました。第Ⅰ部「谷大検定」(We Love 谷大)では、博覧館屋上での記念撮影の後、参加者はメイン会場の第

て卒業と同窓会への入会を祝って、大学、同窓会共催の「大谷大学卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催され、卒業生、修了生、父母兄弟並びに教職員が一堂に会し、和やかなひとときを過ごしました。



卒業証書・学位記授与の様子

一会議室で、久しぶりに再会した恩師や旧友と、和やかな懇談の場をもつことができました。また、当日の参加企画であるクイズツアー「谷大今昔」では、谷大の「今と昔」をテーマに、「NPO法人 尋源舎」「尋源講堂」「一号館壁彫 華厳」「知進守退 石碑」について出題があり、構内に置かれたヒントをもとに解答

していただきました。キャンパスを散策する際には、当日配布された「学園祭模擬店利用券」を利用し、模擬店にも参加しながら在学生との交流も楽しめました。



第Ⅰ部後半の「お楽しみ抽選会」では、「第十二回」ホームカミングデーにちなみ、参加者の中から抽選により、十二名の方々に豪華な味のお楽しみ袋が景品として贈られました。また、クイズツアー「谷大今昔」全問正解者を対象として、全国の同窓会各支部からご提供いただいた特産品が贈られ、大変好評でした。さら



に、模擬店を利用された参加者の投票により、GLOBAL SQUAREが模擬店優秀団体として選ばれ、ホームカミングデーの席上で発表されるとともに、翌日の後夜祭において同窓会より表彰され、賞品が贈呈されました。

その後、京都ロイヤルホテル&SPAに会場を移し、第Ⅱ部「懇親会」が開催され、和やかな雰囲気の中、盛会裡に終了いたしました。

## 高橋正隆元教授が紺綬褒章を受章

大谷大学短期大学部教授として教鞭を執っておられました高橋正隆さん(一九五三年学部卒)が、紺綬褒章を受章され、昨年八月一日(水)、滋賀県庁で伝達式がありました。紺綬褒章とは、公益のために多額の私財を寄付した功績ある人に贈られるもので、このたびの授章は、日本仏教史で著名な経典や美術工芸品など二十七点を県に寄贈したことによりです。

今回の寄贈品は、平安時代の泉福寺焼経や平安末期から奈良の興福寺で出版された春日版の原装本の経典をはじめ、文化財修理や復元品制作の歴史を知るうえで貴重な桂離宮の唐紙見本や天平筆などです。大津市打出浜の県立琵琶湖文化館で保管さ

れ、展示や研究に活用されます。



高橋正隆元教授

**開放セミナー「大乘仏教のあゆみ  
—親鸞の眼を通して—」、NPO  
法人尋源舎の協賛を得て開催**

二〇一一年の宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌に向けて、開放セミナー「大乘仏教のあゆみ—親鸞の眼を通して—」がNPO法人尋源舎の協賛を得て、二〇〇七年秋から始まりました。

このセミナーでは、仏教がインドで生まれ中国を経て日本に伝わり、更なる展開を遂げていく様子を、親鸞の視点を通して、真宗学・仏教学・歴史学の各分野から学ぶものです。

木村学長による、「総論—教主親尊—」（全三回）によってスタートし、七高僧（龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導・源信・法然）そして聖徳太子の「人と思想」をテーマに大谷大学教員が二〇一〇年度までリレー講義を行います。

NPO法人尋

源舎は、仏教的な文化と教養を広く伝えることが、豊かな社会の実現のために必要であるとの視点から、仏教を公開していくという目的を持っており、このセミナーのテーマが尋源舎の趣旨に沿ったものであることから協賛をいただきました。

なお現在、五月より開講する「大乘の仏弟子—天親—」（全六回）の受講申し込みを受付中です。

**開講計画**

	前期 5～7月	後期 10～12月	冬期 2～3月
2007年度		①総論(3回)	②龍樹(6回)
2008年度	③天親(6回)	④曇鸞(6回)	⑤道綽(6回)
2009年度	⑥善導(6回)	⑦源信(6回)	⑧法然(6回)
2010年度	⑨聖徳太子(6回)		



木村学長の講義の様子

**支部長・事務局交代のご紹介**

ありがとうございます  
よろしくおねがいいたします

〈神奈川支部長〉 鶴見 紘

(前支部長 広瀬豊海)

〈大分支部長〉 手嶋 紀生

(前支部長 等岳兼昭)

〈湖南支部事務局〉 上 寺 和 親

(前事務局 井上俊昭)

**同窓会学生支援表彰  
「菩提樹賞」が贈られる**

同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式が二〇〇八年三月十八日(火)、卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会において執り行われ、藤島建樹同窓会会長から二〇〇七年度表彰者二名に表彰状ならびに記念品が贈られました。

この「菩提樹賞」は、学術・文化・スポーツ、ボランティア活動などの分野で、顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生または課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願い、同窓会が発足させた学生支援の制度です。

二〇〇七年度「菩提樹賞」受賞者

◎難波 教行(大学院修士課程真宗学専攻 二〇〇八年三月修了)

自叙伝『たとえば、人は空を飛びたいと思う—難病ジストニア、奇跡の克

服—(二〇〇七年四月二十日 講談社刊)の出版

◎坂本 英之(文学部史学科 二〇〇八年三月卒業)

京滋大学野球連盟二〇〇七年度春季リーグ戦において、「最優秀投手賞」を受賞

**同窓会海外研修 第十二弾  
「中国・浄土教のふるさとを訪ねて」実施報告**

昨年九月一日(土)～九日(日)の九日間にわたって同窓会海外研修第十二弾「中国・浄土教のふるさとを訪ねて」の旅を実施いたしました。本会前理事長若槻俊秀名誉教授を团长として、同窓会員ならびに有縁の方々、十二名の参加者がありました。

曇鸞大師・道綽禪師・善導大師ゆかりの中国山西省玄中寺を訪ね、浄土教のふるさとを歩く研修旅行でした。同時に玄奘三蔵・鳩摩羅什ゆかりの寺院や、中国三大石窟の一つ「雲岡石窟」、中国の木塔「応県の木塔」、絶壁に張り付くように建てられた「懸空寺」なども訪れました。参加者は、雄大な遺跡等を目の前にして、感激されていました。

**二〇〇八年度同窓会総会の案内**

開催日 二〇〇八年五月十五日(木)  
時間 午後一時三〇分(総会終了後、懇親会)



## 海外研修旅行

### 「中国・浄土教のふるさとを訪ねて」に参加して

古宮 義武

(一九七六年文学部・仏教学科卒業)

昨年九月に約十日間かけて、妻共々標記研修旅行に参加して、北京オリンピック間近の中国を垣間見してきました。

主な訪問先は、北京郊外の万里の長城（八達嶺）から始まって、ほぼ日程順に山西省大同の雲崗石窟、五台山（菩薩頂、顯通寺、塔院寺、羅喉寺、金閣寺、竹林寺等）、太原郊外の玄中寺、平遥古城、陝西省西安の兵馬俑坑、大慈恩寺、香積寺、草堂寺、更に北京に戻って周口店の北京原人遺跡、房山雲居寺などでした。寺院だけでも約二十ヶ所を訪れました。私個人としては、一九八五年に



靈仙三蔵の顯彰碑  
(五台山金閣寺)

ようやく外国人の立ち入りが可能されたという五台山に特に関心がありました。なかでも平安時代に日本人として五台山に足跡を印した四人の僧侶、靈仙三蔵、円仁、齋然、成尋らに興味をもっていました。ですから五台山の金閣寺の境内（といってもなぜか扉の外のようなところでしたが）で靈仙三蔵を顯彰する古い石碑を見たときは、大変感激しました。五台山については事前に下調べもしていたのですが、実際に訪れた印象はそのときの写真などのイメージとは全く違って瀟洒なホテルなども多く、どこか日本の軽井沢あたりを彷彿とさせるような一大リゾートといった感じでした。

また今回のツアーの最大の目的でもあった浄土教の祖庭玄中寺訪問の際は、山西省仏教協会の重鎮でもある住持の釈悟証師から、記念に同窓会宛の揮毫をしていただきました。



玄中寺  
釈悟証師の書

仏教の関係で言えば、そのほか数多く訪れた寺院はどこもきちんと整備され、危惧していた文化大革命の後遺症はほとんど見受けられませんでした。

また経済や社会の関係では、大同付近で見た、地元で産出する石炭の天津に向けてのトレーラーや貨物列車によるものすごい量の輸送、暗くなっても燃料節約のためヘッドライトを点けずに走る車、商店や民家などの徹底した電気の節約、車窓に広がる玉蜀黍の植わった赤茶色の黄土高原、まっすぐに延びた高速道路と両脇に植えられたポプラ並木、都市部のいたるところで行われているビルや道路の建設工事、合弁企業による現地生産のため、日本では高価なヨーロッパのブランド車が多かったこと（日本車は思ったより少ない）等々が特に印象に残りました。

同時にマスコミなどでも、しきり

に報道される都市部と農村部の経済格差（あるいは富裕層と貧困層の格差）といった、現在の中国が抱える大きな課題もいたるところで実感しました。帰国間際、北京でオリンピックのメイン会場とその周辺を遠望しました。今から四十年以上前の東京オリンピックの際、最初の大学生時代を東京で過ごしていた私は、その前後の目覚ましい首都の変貌ぶりを体験・記憶していますが、日本のそうした時代を開放後の中国が、今辿っているように思われませんでした。



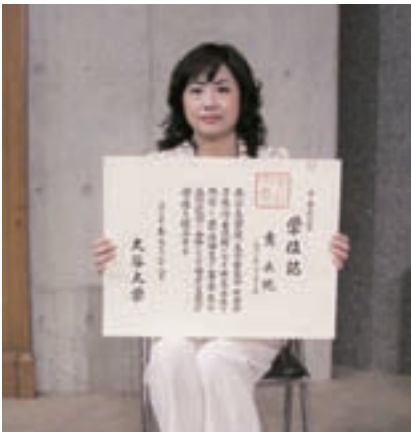
玄中寺の境内

# 母校だより

## 課程博士の学位を授与

大谷大学では、博士後期課程修了者の黄止玠さん（社会学専攻）に博士（文学）の学位記を授与しました。黄さんは二〇〇六年三月末に大谷大学大学院博士後期課程を満期退学し、現在は母国である韓国の大学で日本語教師として活躍されています。

これまで大谷大学では課程博士論文を提出できるのは年一回（九月末締切）でしたが、セメスター制に対応するため、二〇〇六年度より年二回（九月末、三月末締切）提出できるようにになりました。黄さんは昨年三月末に学位請求論文を提出し、審査の結果九月二十八日（金）に学位を取得されました。



黄止玠さん

## 宮崎健司教授・兵藤一夫教授が博士（文学）の学位を取得

大谷大学の宮崎健司教授と兵藤一夫教授が、学位論文を提出され、博士（文学）の学位を取得されました。授与式は、今年の十月十日（水）と十二月十八日（火）に、それぞれ大谷大学にて行われました。

### ◎宮崎健司教授

「日本古代の写経と社会」

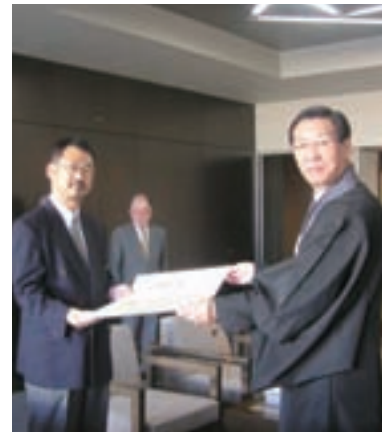
### ◎兵藤一夫教授

「初期唯識思想の研究―唯識無境と三性説―」

## 開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙行

去る十月十三日（土）、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」が挙行されました。十月十三日を開学の日とするのは、近代の大学として出発した一九〇一（明治三十四）年の開校式が挙行された日によります。

勤行、学長の挨拶に引き続き、記念講演として前龍谷大学学長で龍谷大学名誉教授の神子上恵群氏より



宮崎健司教授（10月10日）



兵藤一夫教授（12月18日）



神子上恵群氏

「心の時代の大学」の講題でご講演をいただきました。

## 藤田昭彦教授が京都府私立学校教育功労者として表彰される

藤田昭彦大谷大学短期大学部教授が府内の私立学校の教育振興や発展に貢献した人に贈られる教育功労者表彰を幼稚園部門で受賞されました。今回の表彰は藤田教授が大谷幼稚園の園長を務めるかたわら、京都府私立幼稚園連盟の副理事長として活躍されたことが評価されたもので表彰式は昨年十一月十日（土）、京都市アバンティホールにて京都府私立幼稚園研修大会内で行われました。



藤田昭彦教授

## 大谷学会研究発表会を開催

昨年十月二十三日（火）、響流館メディアホールを会場として、大谷学会研究発表会が開催されました。発表三〇分、質疑応答一〇分という限られた時間内の研究発表でしたが、前もって用意された資料に基づきながら、四名の大谷大学教員が日ごろの研究の一端を発表されました。ま



# 母校の動き (2007年9月~2008年3月)

2007年

- 9/11(火)~29(土)  
大谷大学博物館2007年度秋季企画展  
【仏教の歴史とアジアの文化Ⅶ 久多の大般若経】  
同時開催 実習生展
- 9/27(木) 【宗祖御命日勤行・講話】  
「レッスン『賢者ナータン』 偏見なき愛と真実の宗教」  
友田孝興 大谷大学教授
- 9/28(金) 【前期卒業証書・学位授与式】  
【前期卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】
- 9/29(土) 【教育後援会全国父母兄姉懇談会】
- 10/9(火)~11/28(水)  
大谷大学博物館2007年度特別展  
【法隆寺一切経と聖徳太子信仰】
- 10/13(土) 【開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要】  
「心の時代の大学」  
神子上 恵群 龍谷大学名誉教授・前龍谷大学学長
- 10/14(日) 【自己推薦入試】文学部全学科・短期大学部全学科
- 10/20(土)・21(日)  
【大谷大学大学院秋季試験】  
【大谷大学大学院社会人入試】(20日のみ)  
【大谷大学第3学年社会人編入学試験】(21日のみ)  
【大谷大学第3学年推薦編入[前期日程]】(21日のみ)
- 10/23(火) 【大谷学会研究発表会】  
能「山姥」と「十牛図」考  
モニカ・ペーテ 大谷大学教授  
日本人初の入蔵者・寺本婉雅に関する新出資料について  
三宅伸一郎 大谷大学講師  
末法到来と空の象徴化：響堂山石窟に刻まれた阿弥  
陀浄土図と『文殊般若』の相互関係  
井上尚実 大谷大学講師  
福祉の地域化と民生委員活動の課題  
山下憲昭 大谷大学教授
- 10/26(金) 【宗祖御命日勤行・講話】  
「日本の懐かしき歌の魅力」 豊住征子 大谷大学短期大学教授
- 10/31(水) 【教職員を対象とする人権問題学習会】  
人権教育推進委員会  
○第2部会(民族差別問題部会)  
「在日コリアンの100年」学習会報告 加来雄之 委員

○第4部会(性差別問題部会)  
「セクシュアリティの多様性」 滝口直子 委員  
「ワーク・ライフ・バランスについて」 浅見直一郎 部長

- 11/3(土)・4(日) 【指定校制推薦入学制度】
- 11/9(金)~11(日) 【2007年度 紫明祭】  
9(金)・前夜祭  
10(土)・エフエム京都α-STATION [J-AC TOP40] 公開生放送  
11(日)・北区 地域と大学とつながるネット・フリーマーケット  
・2007年度紫明祭講演会(小林ゆり)・後夜祭
- 11/10(土) 【第12回同窓会ホームカミングデー】
- 11/17(土)・18(日) 【公募制推薦入試】  
【大学報恩講】  
「親鸞聖人と涅槃経」 三桐慈海 大谷大学名誉教授  
【大谷大学真宗総合研究所・合同シンポジウム】
- 12/4(火)~22(土)  
大谷大学博物館2007年度冬季企画展  
【京都を学ぶ 拓本でみる京の梵鐘】
- 12/5(水) 【“人権問題を共に考えよう”全学学習会】  
第1部「差別落書事件についての報告と学習」  
第2部「インターネット上における差別の現状と課題」  
田畑重志 講師
- 12/8(土) 【教育後援会四国地区父母兄姉懇談会】(岡山会場)
- 12/9(日) 【教育後援会中国地区父母兄姉懇談会】(岡山会場)
- 12/15(土) 【大谷大学第3学年推薦編入[後期日程]】  
【大谷大学大学院外国人留学生入試】
- 2008年
- 2/4(月)~7(木) 【一般入試[第1期]】  
【大谷大学第3学年一般編入】
- 2/26(火)・28(木) 【大谷大学大学院春季試験】
- 2/27(水) 【一般入試[第2期]】  
【卒業証書並びに学位記授与式】  
【卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

た、学外からの参加者も多く、活発な質疑応答がなされました。なお、題目・発表者は次の通りでした。

能「山姥」と「十牛図」考  
モニカ・ペーテ 大谷大学教授  
日本人初の入蔵者・寺本婉雅に関する新出資料について  
三宅伸一郎 大谷大学講師  
末法到来と空の象徴化：響堂山石窟に刻まれた阿弥陀浄土図と『文殊般若』の相互関係  
井上尚実 大谷大学講師  
福祉の地域化と民生委員活動の課題  
山下憲昭 大谷大学教授

## 大学報恩講厳修



山下憲昭教授

昨年十一月二十七日(火)、講堂において、学内外から多数参加のもと、大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要が挙行されました。

宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂で学長の調声により『正信偈』を全員で唱和した。学外からの参加者も多く、活発な質疑応答がなされました。なお、題目・発表者は次の通りでした。

能「山姥」と「十牛図」考  
モニカ・ペーテ 大谷大学教授  
日本人初の入蔵者・寺本婉雅に関する新出資料について  
三宅伸一郎 大谷大学講師  
末法到来と空の象徴化：響堂山石窟に刻まれた阿弥陀浄土図と『文殊般若』の相互関係  
井上尚実 大谷大学講師  
福祉の地域化と民生委員活動の課題  
山下憲昭 大谷大学教授

## 大学院特別セミナー公開講演会 開かれる



三桐慈海名誉教授

昨年十月十二日(金)、響流館メディアホールにおいて大学院特別セミナー公開講演会が開かれました。講師はマルブルク大学福音主義神学部教授・大谷大学客員教授であり、実践神学の研究が専門であるゲルハルト・M・マルティン教授でした。

マルティン教授による今年度の大学院特別セミナーは昨年十月八日から十九日間まで二週間にわたって開

て報恩講を厳修しました。引き続き歴代講師謝徳法要に移り、『阿弥陀経』の読経のなか、来賓、教職員、学生がそれぞれ焼香を行いました。また、本年も六名の学生の出仕があり、全学挙げての法要となりました。

法要終了後は、三桐慈海名誉教授により「親鸞聖人と涅槃経」の講題で記念講演が行われました。その後、食堂に会場を移して小豆粥のお齋を全員でいただきました。





ゲルハルト・M・マルティン客員教授

講され、「西洋の様々な宗教の伝統における空間と時間の見方」をテーマに、講義と演習形式によって進められました。公開講演会は「宗教、あるいは方向づけ・呼びかけ・救い」という講題で第一週の最後に行われ、特別セミナー全体を包括する内容となりました。マルティン教授の基本的な姿勢として、神学研究は単なる形而上学的な営みではなく、常に現実の中にあつて考える学問である、ということが強調されました。さらに、「時間」と「空間」という枠組みから見た宗教の様々な類型について、またマルコの福音書におけるイエスの物語、A・カミュのシシュポスの神話、そして禅の十牛図という三つの物語に共通したモチーフについて論を進めていく中で、宗教のテキスト自体が示している救いと現実との不可分性が詳細に述べられました。

講演終了後はビッグバレーにてレセプションが開かれ、講師と聴講者との親睦を深めました。

### タイ・マハッチュラロンコン大学 一行来学

タイのマハッチュラロンコンラーチャウィットヤライ大学のダマコーサージャーニ学長を代表とする視察団六十一名が、昨年十月四日(木)午前、大谷大学を訪問しました。

同大学は、仏教徒が国民の九割以上を占めるタイの中でも、仏教を学ぶ最高学府と言われる大学で、仏教教育、人間、社会の四つの学部と大学院からなる学生数一万人の大学です。今回の訪問は、京都の仏教系大学の現代的な研究設備や研究方法の視察を目的とするもので、大谷大学のほか、花園大学、佛敎大学、龍谷大学を訪問されました。

大谷大学とタイとの交流は一〇〇年以上にわたり、大谷大学図書館には二〇世紀初頭に当時のシャム国王から寄贈された三蔵 (Tipitaka) や三〇冊の注釈書、東本願寺大谷光演師がタイで寄贈された貝葉パリー經典などが所蔵されています。

響流館メディアホールでは、草野顕之文学部長、兵藤一夫真宗総合学術センター長をはじめ、タイを研究フィールドとする田辺繁治教授、高

井康弘教授、清水洋平非常勤講師に参列いただき、交流会を催すとともに、これらの寄贈書の観覧の後、響流館内の施設見学を行いました。挨拶に立たれたダマコーサージャーニ学長は、ご自身の師となるサティアン師が戦中に大谷大学で学べたこと、その縁ある大学を訪問できたことはこの上ない喜びであること話を話されました。

視察団の一行は、施設見学の最後に立ち寄られた尋源館で、ダマコーサージャーニ学長を導師として勤行をされ、会場となった尋源講堂は荘厳な空気で満たされました。



ダマコーサージャーニ学長へ記念品を贈呈

### 日本民俗学会第五十九回年會を 大谷大学で開催

昨年一〇月六日(土)・七日(日)、大谷大学を会場として日本民俗学会第五十九回年會が開催されました。日本民俗学会は、民俗学の研究とそ

の普及および会員相互の連絡を図ることを目的として、一九四九年に発足した民俗学研究者の全国的な学会です。本学会の学術大会は「年會」と称して毎年行われています。

六日には、大谷大学が位置する小山郷に伝承される念仏芸能「六齋念仏」が実演されたほか、大谷大学名誉教授故五来重氏が考究・提唱した「仏教と民俗」をテーマに、豊島修教授の基調講演「仏教と民俗の交渉」に加え、「巡り」・「地獄」・「念仏」をキーワードとするパネル報告を中心とした公開シンポジウムが行われました。

七日は、約一五〇名の研究者による研究発表や小シンポジウムが十二の部会場で行われ活発な議論が展開されました。

両日を通じて、延べ一〇〇〇名を超える参加者をお迎えし、総勢七四名の大谷大学学生・大学院生有志のスタッフによる尽力もあつて、大変な盛会となりました。



基調講演の様子

## 東國大と博物館交流協定を締結

大谷大学の学術交流協定校である韓国東國大と大谷大学博物館が学術交流活動の一環として去る十月一日(月)に交流協定を締結しました。

東國大博物館は一九六三年に開館された歴史ある博物館です。仏教総合博物館という特徴を堅持し、仏教関係の遺物や資料、美術資料を収集・保管・展示しています。また、仏教美術の調査・発掘には定評があり、研究活動成果を学会で発表すると同時に学生教育にも活用しています。

大谷大学の博物館開設は二〇〇三年ですが、それ以前は図書館で資料収集・展示の実績を積んでおり、その伝統においては東國大博物館と比肩するものと思われず。

両博物館は、その設立目的を共有



鄭于澤博物館長と会談の様子

や作品の相互貸出、学芸員の交流など、今後さまざまな交流による成果が期待されます。

## 佛光大と学術交流協定を締結

去る十月二日(火)、木村学長が台湾の佛光大学を訪問し、翁政義佛光大学学長と両校の交流について協議のうえ学術交流協定を締結しました。佛光大学は、人間仏教の精神に基づき人格教育を基本理念に掲げ仏教教育に力を注いでおり、二〇〇七年には台湾で初めて仏教学部の設置が認可された総合大学です。大学院を併設しており、四学部二〇学科に約二一〇〇名の学生が学んでいます。

佛光大学の副理事長としてご活躍の慈恵法師は、一九七三年に大谷大学修士課程を修了され、現在、佛光大学の宗教教育部門の最高責任者として力を尽くしておられます。慈恵法師は調印式の挨拶の中で、母校である大谷大学との交流が始まることを心から喜び、人間はどういうものか、人間の生きる意味を考えながら交流をしていきたいと、述べられました。

また、宗教学科助教授の奥村浩



学術交流協定を交わす翁政義学長(左)・慈恵法師(中央)と木村学長

基博士は、大谷大学の卒業生で二〇〇三年三月に博士の学位を取得され、今般の学術交流協定の締結にご尽力をいただきました。今後の活発な交流が期待されます。

## 人権をめぐる二つの学習会を開催

教職員を対象とする人権問題学習会が、去る十月三十一日(水)、一号館一〇一教室で開催されました。今年度は四部会からなる「人権教育推進委員会」の中から、第二部会(民族差別問題)と第四部会(性差別問題)の報告がありました。

第二部会は「在日コリアンの一〇〇年」学習会報告」と題して、部会内でこれまで行われた、在日コリアンの歴史の概略、朝鮮学校の歴史と生徒のアイデンティティ、在日コリアンによる文学といったテーマについての学習内容を中心とした報告を行いました。

第四部会は「セクシュアリティの



第4部会 滝口直子教授

多様性」と「ワーク・ライフ・バランスについて」の二つの発表を行いました。前者は、セ

クシユアル・マイノリティとされる人々のさまざまなありかたを、具体例を交えて報告しました。後者は、仕事と家庭の調和という考え方に端を発したワーク・ライフ・バランスの概念に関して、基本的な事項からの説明と問題提起を行いました。約六〇名の参加者からは、活発な質問が出されました。

また、二〇〇七年度第二回「人権問題を共に考えよう」全学学習会が去る十二月五日(水)、大谷大学講堂において開催されました。今回は二部構成で、その第一部では、昨年十月末に学内で発見された差別落書の報告と学習が行われました。続いて第二部では反差別ネットワーク人權研究会代表の田畑重志氏を講師にお招きして「インターネットにおける差別の現状と課題」というテーマで講演をしていただきました。田畑氏は、落書やネット上の書き込みなど匿名性の陰に隠れた差別行為が増えている現状について実例を挙げてお話しくださ



田畑重志氏

り、「差別の痛みが分かる人間」を育てていくような人権教育の重要性を指摘されました。



図書館・博物館だより

博物館特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」

博物館では、十月九日（火）から十一月二十八日（水）まで、特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」を開催しました。法隆寺一切経は平安時代末期の代表的な一切経（仏典の一大叢書）です。この展覧会では、大谷大学博物館所蔵の法隆寺一切経約八十巻を中心に、斑鳩寺（兵庫県）・鶴林寺（兵庫県）・観音寺（滋賀県）・四天王寺（大阪府）・中山寺（兵庫県）・法隆寺（奈良県）・祐誓寺（愛知県）・奈良国立博物館・京都国立博物館など各位の協力のもと、法隆寺一切経の書写の様子やその特徴を取り上げ、また書写事業の背景



特別展展示室風景

にあった聖徳太子信仰に関わる彫刻・絵画など、計四十一一点（うち重要文化財五点）を展示しました。

この展覧会にあわせて、十月十三日（土）に宮崎健司大谷大学教授（博物館学芸員）による講演会「法隆寺一切経の形成」、十一月三日（土）に田中嗣人華頂短期大学教授による講演会「聖徳太子信仰と法華経」を開催し、好評を博しました。

また、十月十九日（金）と十一月二十三日（金・祝）には宮崎学芸員によるギャラリートークを、開館日で〇と五の付く日（計八回）には学生ガイド解説ツアーを開催し、展示の概要をわかりやすく説明しました。十一月六日（火）からは、試験的に無料の音声ガイドを導入し、コーナー解説を含む十五ヶ所の解説を自由に聞くことができるようにしました。



田中嗣人氏

博物館冬季企画展 京都を学ぶ「拓本でみる京の梵鐘」

博物館では毎年「京都を学ぶ」という共通テーマで冬季企画展を開催しています。今年度は「拓本でみる京の梵鐘」として十二月四日（火）から二十二日（土）まで展示しました。この企画展は、二〇〇三年度冬季に開催した企画展が、期間が短かったため再展示の要望が多く、今年度実現することになったものです。館内には、現存最古の梵鐘である妙心寺梵鐘銘や、「三絶の鐘」として有名な神護寺梵鐘銘、大坂の陣のきっかけとなった方広寺梵鐘銘など、貴重な梵鐘の拓本十五点を展示しました。これらの拓本によって、京都に所在する諸寺院の梵鐘が铸造された歴史的背景や、一つひとつにこめられた人びとの願い、その造形美などを感ずっていただけたかと思えます。



冬季展展示室風景

大谷大学博物館「京都市内博物館施設連絡協議会表彰状」を授与される

十二月五日（水）、京都ホテルオークラにおいて、京都市内博物館施設連絡協議会設立十五周年記念式典及び祝賀会が開催されました。この式典に大谷大学博物館も招待を受け、同協議会の事業推進に貢献したことに對し「京都市内博物館施設連絡協議会表彰状」を、また生涯学習への取り組みを評価され「京都市長感謝状」が授与されました。



## 「Mac OS X 10.5 Leopard」にチベット語環境を無償提供

二〇〇七年十月二十六日(金)に世界同時発売された、アップル社の新OS「Mac OS X 10.5 Leopard」に、大谷大学真宗総合研究所・西藏文献研究班が開発したチベット語システムが標準搭載されました。

本研究班では、一九九〇年代前半からチベット語のコンピュータ利用に取り組み、一九九五年には、マックイントッシュの多言語環境「WorldScript」バージョン7.1に対応した「Tibetan Language Kit for Macintosh」(以下TLK)を開発、国内外の学会向けに配布しました。その後「WorldScript」が7.6にバージョン・アップされたのに伴い、対応アップデート版を二〇〇〇年にWeb上で公開、配布しました。いずれの配布も無料でおこなったものです。

二〇〇一年にアップル社がMac OS Xを発表して以降もTLKのアップデート版開発を続けており、二〇〇六年秋には、名前を「Otani Unicode Tibetan Language Kit」と改め、そのパブリック・ベータ版を公開しました。

こうした長年の取り組みが、世界的コンピュータ・メーカであるアップル社によって認められたのです。それは、西藏文献研究班のシステムには、長い伝統を誇る大谷大学のチベット研究の成果が盛り込まれているからです。「Kaitas(カイラーサ)」「Kokonor(コノール)」という二種類のフォントは、世界標準の文字コードであるUnicodeに対応しています。これにより、異なったOS間でのチベット語データ・ファイルのやりとりはもろんのこと、チベット文字を使ったWebページの作成や閲覧、メールのやりとりなども極めて容易となりました。

今回のこの出来事が、チベット文化の発展に大きく寄与すると信じています。



### 細川行信先生を偲んで

大谷大学名誉教授で、真宗学がご専門の細川行信先生、二〇〇七年十月二十四日(水)にご逝去されました。

先生は、その生涯を真宗学史の研究のために捧げられました。

先生は、寺院後継者として、大谷中学から大谷大学へと進まれました。時あたかも戦時中で、兵役に服し、否応なく死に直面し、またその時の過労から病気を患い、「生死出づべき道」を求められるようになったとのことでした。しかも関東の地で終戦を迎えたことから、東国での親鸞聖人の跡を偲ぶご縁を頂いたと、お話ししておられました。そのようなバックグラウンドから、先生は、ご自身の求道的な関心とともに、親鸞聖人とその門弟の事蹟、さらに真宗の歴史に研究の関心を広げ、ライフワークとしての真宗教学史の研究に専



心していかれたようです。

先生は、昭和二十三年に大谷大学の文学部をご卒業後、研究科に進み、大谷大学の助手として真宗学研究室に勤務され、以来、大谷大学で教鞭を執られました。私が、大谷大学大学院に入学した昭和四十一年頃、折りしも学内に学園紛争が惹起し、大学側と学生との間に何度も話し合いが行われました。先生は、当時、学生部長をお勤めになり、困難な場で、教員・学生の双方の理解のために尽力されました。

昭和五十一年、先生は「源空門下の分流と念仏義」という学位論文を提出、文学博士の称号を授与されました。

私自身、その後の研究で法然上人とその門下の浄土思想に関心を寄せるようになり、先生のご著書からとても多くのことを学ばせていただいております。細川先生の宗祖への篤い想いと厳密な史料研究に、金子大栄先生の真宗学と山田文昭先生の真宗史学の大谷大学のふたつの伝統の呼応を感じずにはいられません。ご研究の導きに改めて学恩の深きことを思います。細川先生、本当にありがとうございます。

大谷大学教授 真宗学

安富信哉



人 事

主事の交代

〔真宗総合研究所主事〕松川 節

(前真宗総合研究所主事 廣瀬 幸市)

二〇〇七年十月一日付

退職

\* 依願退職

〔教育職員〕

片岡 裕 (教授・文学部)

廣瀬 幸市 (准教授・文学部)

二〇〇七年九月三十日付 (各通)

〔事務系嘱託〕

佐野 千恵 (学生支援部)

戸田 佳世 (総務部)

中出 美保 (校友センター)

本多 由佳 (入学センター)

二〇〇七年九月三十日付 (各通)

川勝 直子 (教育研究支援部)

二〇〇七年十二月三十一日付

野間 淳子 (教務部)

二〇〇八年一月三十一日付

新規採用

〔事務系嘱託〕

浅野 千尋 (総務部)

上原亜貴子 (入学センター)

大伴 博子 (教育研究支援部)

高橋 由佳 (校友センター)

二〇〇七年十月一日付 (各通)

二〇〇七年度  
秋季課外活動結果

〔団体成績〕

●卓球部 (男子)

・関西学生卓球リーグ戦

Ⅲ部Aブロック 一勝六敗 六位

Ⅲ部残留

●卓球部 (女子)

・関西学生卓球リーグ戦

Ⅲ部Aブロック 二勝三敗 五位

●柔道部 (男子)

・京都十一大学親善柔道大会

一部 三敗 四位

●硬式野球部

・京滋大学野球連盟秋季リーグ戦

I部 七勝四敗 三位

●サッカー部

・関西学生サッカー連盟秋季リーグ

Ⅲ部Aブロック 六勝二分 二位

Ⅲ部I-II部入替戦 Ⅲ部残留

●剣道部 (男子)

・関西学生剣道優勝大会

二敗 一回戦敗退

・全日本仏教系大学剣道大会

二敗 一回戦敗退

●バスケットボール部 (男子)

・関西学生バスケットボール連盟

秋季リーグ戦 Ⅲ部Bブロック

一勝十敗 十二位

●バスケットボール部 (女子)

・関西女子学生バスケットボール連盟

秋季リーグ戦 Ⅲ部

十一勝一敗 三位

・関西女子学生バスケットボール連盟

秋季トーナメント大会 三回戦敗退

●ソフトテニス部 (男子)

・関西学生ソフトテニス

秋季リーグ戦 V部Cブロック

一勝二敗 三位

●ソフトテニス部 (女子)

・関西学生ソフトテニス

秋季リーグ戦 VI部Aブロック

一勝二敗 三位 VI部残留

●バレーボール部 (男子)

・関西学生バレーボール連盟

秋季リーグ戦 V部

二勝五敗 七位

●バトミントン部 (男子)

・関西学生バドミントン連盟

秋季リーグ戦 VI部

二勝三敗 四位

●バトミントン部 (女子)

・関西学生バドミントン連盟

秋季リーグ戦 Ⅲ部

二勝四敗 五位

●ラクロス部

・関西学生ラクロス秋季リーグ戦

Ⅲ部Aブロック 四敗 五位

●アメリカンフットボール部

・関西学生アメリカンフットボール連盟

秋季リーグ戦 Ⅲ部Cブロック

三敗一分 四位

〔個人成績〕

●卓球部 (女子)

〈秋季 京都九大戦〉

ダブルス

・優勝 岩田 政代

(文学部国際文化学科 第二学年)

・優勝 佐藤 有夏

(文学部社会学科 第三学年)

●硬式野球部

〈京滋大学野球連盟I部秋季リーグ戦〉

〔ベストナイン〕

・セカンド 吉岡 晋平

(文学部仏教学科 第二学年)

【打撃ベストテン】

・第四位 藤川 圭市

(文学部仏教学科 第二学年)

・第五位 吉岡 晋平

(文学部仏教学科 第二学年)

●ソフトテニス部 (男子)

〈京都学生ソフトテニス連盟

新進大会〉

ダブルス

・ベスト八 重元 俊昭

(文学部社会学科 第三学年)

・中村 有誠

(文学部史学科 第二学年)

●陸上競技部

〈京都スポーツ祭典陸上競技大会〉

【男子一般 八〇〇m】

・第三位 溝渕 奨太

(文学部哲学科 第一学年)

●跆拳道部

〈拳樹会オープン〉

【一般 男子上級フィン級】

・準優勝 禿 孝宏

(文学部真宗学科 第四学年)

【一般 男子中級ライト以上】

・準優勝 吉田 広輝

(文学部社会学科 第二学年)

【一般 男子初級ライト・ウエルター級】

・第三位 山岸 巧

(文学部史学科 第二学年)

【一般 男子初級バンナム・フェザー級】

・優勝 永峯 隼人

(文学部社会学科 第一学年)

以上

# 教育振興資金(募金)について

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。大谷大学・大谷大学短期大学部は学校法人として「特定公益増進法人」の認可を受けており、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。二〇〇七年七月一日から二〇〇八年一月三十一日までの間に「寄付いただきました方々の芳名は、次のとおりです。ご支援・ご協力ありがとうございました。厚くお礼申しあげます。」

## ◆件数 一三〇件

## ◆寄付金総額八、八〇二、五〇〇円

〔教育振興資金寄付者(敬称略)〕

浅井 秀紀	安倍 彰雄	天野 義敬
庵 絃昌	井汲 泰三	池田 俊朗
池田 典生	石川 正治	石澤 一昭
石橋 義秀	猪井 勝美	井元 昌孝
上田 毅浩	浦西 昭	大江 清志
大賀 光範	清水 彰	岡崎あけみ
影山 浩	梶 辰三夫	梶浦由喜子
梶尾 義人	加藤 正	加藤 正憲
金石 晃陽	兼田 利子	上条 弘宣
亀岡 昭詞	川崎 敬子	河崎 顕了
川崎 正則	河田 嗣雄	河田 良三
川端 章夫	神田 敦司	木越 渉
木曾 亮言	木谷 齊	工藤 義彦

窪澤 真一	窪田 希文	黒宮 照美
小下 弘和	小谷夢喜男	古寺 了俊
近藤 昌丸	斉藤 亮	坂手 正尚
相良 義則	佐藤 重雄	佐野 俊導
島袋 常隆	清水 一己	小代 敬一
菅谷 幸広	鈴木 健氏	瀬川 徹
高野 清嗣	竹島 宗人	竹中 盛思
竹原 健児	龍山 了祐	田中 孝史
田中 実	田辺 博	谷 哲修
月村 俊之	傳 敏男	長岡 宗円
中谷 肇	中藤 講	中村 政順
永治 悦子	鍋山 清一	成澤 隆文
難波 明則	西岡 健治	西澤 恒男
早川 毅	橋本 幸伸	八田 信雄
濱村 昭三	林 孝慈	早野 真一
原田 常昭	日高 久志	福井 憲雄
福田 吉充	藤坂 初裕	藤秀 善昭
藤原真利子	別府 聡	堀 英二
本多 恵実	増田 勉	松元 彰信
松本 善和	三浦 勝美	宮木 義行
宮崎 俊雄	宮野 悠	桃井 正尊
森川 潤	森永太郎	山浦 芳光
山岸 洋介	山口 利久	山口 充洋
山崎 嘉幸	山階 啓二	山田 昌美
山根 和男	吉田 恵一	匿名〔三名〕

(有) フクイ内装システム (代表取締役 八ヶ代勇次)

専念寺(伊藤 理) 勝願寺(井上 証)  
南桂寺(奥林 暁) 廣誓寺(亀崎 英潤)  
速念寺(小島 映潤) 浄宝寺(島津 知道)  
浄雲寺(相馬 温) 教願寺(遠島 芳然)  
東弘寺(豊田 等流) 佛乘寺(藤並 光憲)  
真光寺(發知 隆法) 託蓮寺(松山 隆)  
如意輪観世音寺(湯浅 智機)

# 大谷大学教員の出版物紹介

- ◎『조기화엄사상사』 (初期華嚴思想史) 織田顕祐 著 仏教時代社 刊 (二〇〇七・四) 二九五頁
- ◎『大谷派なる宗教的精神―真宗同朋会運動の源流―』 水島見一 著 真宗大谷派宗務所 出版部 刊 (二〇〇七・九) 三四五頁
- ◎『近世略縁起論考』 石橋義秀・菊池政和 共編 加藤基樹 分担執筆 和泉書院 刊 (二〇〇七・九) 二二三頁
- ◎『日中兩國の視点から語る 植民地期滿洲の宗教』 木場明志・程舒偉 共編 桂華淳祥・李青 分担執筆 柏書房 刊 (二〇〇七・九) 五二六頁
- ◎『解脱の宝飾―チベット仏教成就者たちの聖典『道次第・解脱莊嚴』』 ガムボバ 著 白館戒雲・藤仲孝司 共訳 UNIO 刊 (二〇〇七・七) 四四五頁
- ◎『生徒指導の方法と実際』 加藤豊比古ほか 編 佐賀枝夏文・水島見一 分担執筆 八千代出版 刊 (二〇〇七・四) 二六一頁
- ◎『戦後仏教社会福祉事業の歴史』 長谷川匡俊 編 佐賀枝夏文 分担執筆 法藏館 刊 (二〇〇七・五) 二五一頁
- ◎『戦後仏教社会福祉事業史年表』 長谷川匡俊 編 佐賀枝夏文 分担執筆 法藏館 刊 (二〇〇七・五) 二七七頁
- ◎『五来重著作集 第一巻日本仏教民俗学の構築』 五来重 著 法藏館 刊 (二〇〇七・一〇) 四四四頁
- ◎『紛争後社会と向き合う ―南アフリカ真実和解委員会』 阿部利洋 著 京都大学学術出版会 刊 (二〇〇七・一二) 三八四頁
- ◎『唯信鈔』講義 安富信哉 著 大法輪閣 刊 (二〇〇七・一二) 二六二頁
- ◎『光華叢書4 仏教思想の奔流 ―インドから中国・東南アジアへ―』 木村宜彰・早島理・太田清史 著 京都光華女子大学・真宗文化研究所 編 自照社 刊 (二〇〇七・三) 三二八頁
- ◎『鉄道 関西近代のマトリクス』 日本近代文学会関西支部 編 天野勝重 分担執筆 和泉書院 刊 (二〇〇七・一一) 六四頁
- ◎『保育心理―保育シリーズI』 牧田桂一・山田真理子・大谷保育協会 編 佐賀枝夏文 分担執筆 樹心社 刊 (二〇〇七・一一) 二四二頁
- ◎『エチオピアを知るための50章』 岡倉登志 編 古川哲史 分担執筆 明石書店 刊 (二〇〇七・一二) 三八四頁
- ◎『学内刊行物』
- ◎『大谷大学教職支援センター研究紀要』 大谷大学教職支援センター 編・刊 (二〇〇七・八) 一〇五頁
- ◎『人権センター叢書 vol.4』 大谷大学人権センター 編・刊 (二〇〇七・四) 九五頁
- ◎『人権センター叢書 vol.5』 大谷大学人権センター 編・刊 (二〇〇七・八) 五九頁



## 2008年度前期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養をお求めの方に、大谷大学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。大谷大学ならではの宗教・信仰を求めている講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。(講師の肩書は2008年3月現在のものです。)

### 開放セミナーのご案内

1	テーマ	NPO法人尋源舎 協賛 大乗仏教のあゆみ—親鸞の眼を通して—③「大乗の仏弟子—天親—」
	講師	加来雄之(大谷大学准教授) / 小谷信千代(大谷大学教授) / 箕浦暁雄(大谷大学講師)
	開講日	5月28、6月4・11・25、7月2・9日(水)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
2	テーマ	蓮如—その神話と救済論—
	講師	大桑 齊(大谷大学名誉教授)
	開講日	5月16・23・30、6月13・20・7月4日(金)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
3	テーマ	支援と共感の共同体 —アディクションの回復から学ぶこと—
	講師	滝口直子(大谷大学教授)
	開講日	5月20・27、6月3・10・17・24日(火)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名

### 京都学講座のご案内

1	テーマ	史蹟から見る京都学—古地図を片手に平安京・京都をさぐる—
	講師	中村武生(大谷大学非常勤講師)
	開講日	6月21・28、7月12・19・26日(土)
	時間	14:00～15:30
	定員	100名

### 博物館セミナー

1	テーマ	はじめて学ぶ古文書読み解き講座
	講師	平野寿則(大谷大学講師)
	開講日	5月24・31、6月14・28、7月12・26日(土)
	時間	10:00～12:10(5月31日は14:00～16:10に変更)
	定員	30名

### 紫明講座のご案内

1	テーマ	立原道造の文学と生—形式が生み出した感受性—
	講師	國中 治(大谷大学教授)
	開講日	5月8・15・22日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
2	テーマ	長者になる法 教えます—『日本永代蔵』西鶴の才覚—
	講師	沙加戸 弘(大谷大学教授)
	開講日	6月5・12・26日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
3	テーマ	胡同一北京の街角を感じてみる—
	講師	李 青(大谷大学准教授)
	開講日	7月1・8・15日(火)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
4	テーマ	新しい情報環境への哲学的アプローチ
	講師	渡辺啓真(大谷大学教授)
	開講日	7月3・10・17日(木)
	時間	18:00～19:30
	定員	100名
5	テーマ	幼児期からの食育—生涯の食の原点を再認識しよう—
	講師	吉田陽子(大谷大学非常勤講師)
	開講日	8月2日(土)
	時間	10:00～13:00
	定員	10家族(主に3～6才までのお子様とご家族を対象とします。)

#### 【申し込み方法】

講座案内を請求される場合にはハガキ、ファックス、Eメールいずれかにて、①氏名・フリガナ②〒・住所③電話番号を明記してください。また、講座を申し込みの場合は、上記①～③に④講座名を明記の上、下記までお申し込みください。

#### 【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係

TEL:075-411-8161(直通) FAX:075-411-8162 E-mail:opensemi@sec.otani.ac.jp

\*講座名等に変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

### 大谷大学博物館開館予定

◆春季企画展「大谷大学のあゆみ

—清沢満之と真宗大学—

四月一日(火)～四月二十六日(土)

◆夏季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化Ⅹ」

五月二十日(火)～八月四日(月)

◆秋季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化Ⅹ

重要文化財『春記』(仮)

九月九日(火)～九月二十七日(土)

※博物館実習生展併催

◆冬季企画展

「京都を学ぶ みやこの姿(仮)」

十二月九日(火)～十二月二十七日(土)

◆特別展「聖徳太子伝の世界(仮)」

(開館五周年記念)

十月十日(金)～十一月二十九日(土)

企画展、特別展とも原則として月曜日・日曜日・祝日休館ですが、場合によっては開館することもあります。

日程等詳細につきましては、大学HPをご覧ください。博物館にご確認ください。

TEL 〇七五—四一一—八四八三 (直通)



# 同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

## 恩師を囲んで

昭和60年3月卒業渡辺貞磨ゼミ同窓会（2007.8.14）  
年々、無盡燈に写真掲載されるのが怖い？私達ですが、今年も学生時代に戻り、楽しいひとときを過ごす事ができました。

道交会（大谷大学柔道部OB・OG会）（2007.8.25）  
残暑厳しいなか、柔道場に諸先輩、お集まりいただきありがとうございます。若いOB・OGの積極的な参加を望みます。



宮崎・東館ゼミ合同同窓会（2003～2006年度卒業）（2007.8.26）  
先輩・後輩入り混じった、楽しい同窓会となりました。次回の同窓会でまたお会いできる事を楽しみにしています。

### 第12回 ホームカミングデー（2007.11.10）







第5回大谷大学育英学寮（昭和30年4月入寮）同期入寮者の集い（2007.9.6）  
母校で学監から大学運営の厳しさを聞き、学寮へ歩き、沿道や寮内の变りに今昔の感を懐いた。懇親会は粟田山荘で大いに盛り上がった。



大桑斉先生の古稀を祝う会（2007.9.1）  
2007年11月に70歳になられる大桑斉先生に、同窓生が感謝をもって、古稀をお祝いする会を催しました。たいへん温かい場となりました。



直心行射会・OB総会・懇親会（2007.9.9）  
一年に一度、集える場所がある。このことに感謝します。



石橋ゼミ同窓会（2005年度卒業）（2007.9.14）  
今回卒業後初めての同窓会でした。残念ながら全員集まる事ができず少人数での開催になりましたが、今度は皆で集まりたいです。



大谷大学混声合唱団OB・OG総会（2007.9.22）  
岐阜、長野、金沢からも出席があり、新旧OB・OGが集いました。来年は創立40周年。現役との合同演奏を行います。





2007年度大谷大学硬式野球部OB会総会 (2007.10.7)  
3年振りのOB会総会に17名が集い、今後のOB会運営についての意見交換がなされました。懇親会は、現役の主将・副将を交え、和やかな雰囲気の中大いに語り合いました。



幼児教育科7期生同窓会 (2007.9.23)  
幼教花の7期生の久しぶりの同窓会。34年振りの方も。でも会った瞬間?! 話した瞬間、学生時代に戻り、京都白河院で、とても楽しい時を過ごしました。



大谷大学実践学寮14期生同窓会 (2007.10.7)  
入寮してから約15年ということで、今回初めての同窓会でした。皆、昔に戻って騒いでとても有意義な時間でした。次は2年後です。



2007年度茶道部後援会懇親会 (2007.10.14)  
妙顕寺での秋期茶会で、55周年記念茶会の反省を念頭に、60周年記念茶会(平成23年)に向って意見交換をした後、現役(清塵会)と一盤を通して、心温まる交流を深め有意義な時を過ごすことができました。

**五来 重著作集** 全12巻 別巻1

第3回記念 第三巻 日本人の死生観と葬墓史

庶民の靈魂観、葬儀、墓制を文獻・民俗を使用して詳細に説明。予八、九、二五、五

【第一期】第一巻 日本仏教民俗学

俗学の構築(解説) 鈴木昭英

第二巻 聖の系譜と庶民仏教(解説) 伊藤唯真

第三巻 日本人の死生観と葬墓史(解説) 赤田光男

第四巻 寺社縁起と伝承文化(解説) 福田晃

第五巻 修験道の修行と宗教民俗(解説) 宮家進

好評既刊 第一巻 日本仏教民俗学の構築 解説 鈴木昭英/八、九、二五、五円

第二巻 聖の系譜と庶民仏教 解説 伊藤唯真/九、九、七五、五円

熊野比丘尼を絵解く

根井浄・山本殖生編著

数多くの絵画史料と文献史料から熊野比丘尼に迫る。六、三〇〇円

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
TEL 075-343-5656 FAX 075-371-0458 税込(5%)  
http://www.hozokan.co.jp

〒600-8153  
京都市下京区東本願寺大門前  
電話 (075) 351-3681(代)  
FAX (075) 351-5563

(株) 平安法藏館





国文学卒業同期会 (2007.10.27)  
本学国文学卒業・竹部俊恵氏により、聖徳太子伝絵解きが実演されました。卒業生、教員、学生、絵解き研究者など尋源講堂に参集し、有意義な会となりました。その後、卒業生20名が懇親会に出席し、あの頃のことを語りあいました。



1982年卒業教育学分野同期会 (25周年) (2007.10.20)  
全然変わってない!! 容姿は大きく変わったけれど性格は昔のまま。楽しい一日でした。次回はもっと多くの人の参加があれば…。



昭和54年卒吉田晴男君をしのぶ会 (2007.11.10)  
突然の吉田君の訃報に接し、急速しのぶ会を開きました。久しぶりに藤島先生を囲み、懐かしいひとときが過ごせました。

昭和61年入学スキー競技部同期会 (2007.11.10)

学祭日に行われているホームカミングデーに参加しました。先輩や新潟の同期の参加もあり、懐かしい学内で楽しく過ごした後、会場を移し、同期会を開催しました。楽しかった学生生活が昨日の事のように感じられた一日でした。

短仏平成4年同期会 (1-C) (2007.11.10)

ホームカミングデーに合わせて同期会をしました。来年はもっと参加者が多くなるように早めに連絡します。



第32回谷雪会総会 (スキー競技部OB・OG総会) (2007.11.17)  
忙しい時期にも関わらず、若手中心に20名ほど集まりました。今後の活動について話し合い、有意義な時間を過ごせました。3年後35周年です。

文化財、社寺、民家、茶室、店舗など、施工致します。

屋根晴

かやぶき専門

YANEHARU 1994年哲学科卒  
 屋根晴 検索 京都府南丹市美山町島英サ29  
 TEL (0771) 75-5088 FAX (0771) 75-5087  
 西尾晴夫 ニシオ サプライズ(株) 代表取締役 体育会バスケットボール部元主将

KARASUMA-DORI
SIJO-DORI
HIGASINOTOIN-DORI
TAKAKURA-DORI

AYANOKOJI
-DORI

TEL: 075-351-2849 mail: info@oyone.com http://www.oyone.com/  
 京都市下京区綾小路高倉西入る神明町 230





大谷大学自動二輪同好会第4回OB・OG会 (2007.12.21)  
同好会になって、4回目のOB・OG会です。大谷の学生時代は宝の山でいっぱいでした。現役の皆さん、よく遊び、よく学んでください。そしてまた再会しましょう。幹事 (伊奈・家本・田中)



笑いの学校 落語研究会OB・OG会 (2007.11.24)  
40周年記念寄席を3年後に控え、現役・OBの絆を深めました。皆、久しぶりにボケを披露した結果、写真も見事にボケています。



大谷大学書道部創立40周年記念祝賀会 (2008.1.19)  
北海道から京都まで遠近各地より約60名近いOB・OGが30周年以来、10年振りに京都ホテルオークラに集い、約2時間、懇談しました。2次会も多数参加し、楽しいひとときを過ごしました。



**知性を運ぶ仕事。**

たとえば携帯電話が辞書になる。  
DNPは携帯電話向けのサービスを提供しています。モバイルの世界に新たな価値を届けるために。  
DNPはこれからも進化を続けます。

**DNP** 大日本印刷株式会社 [www.dnp.co.jp](http://www.dnp.co.jp)

OBも学生もゼミ・クラブ・仲間で盛り上がる！  
いわば大谷大学だけの mixi です。



**<http://mujinto.org/>**

お申込は  
[zingensya@gmail.com](mailto:zingensya@gmail.com)

※利用規約をよくお読みください。提供：NPO 法人 尋源舎



同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2007. 8.14 (火)	昭和60年3月卒業渡辺貞磨ゼミ同窓会
2007. 8.25 (土)	道交会 (大谷大学柔道部OB・OG会)
2007. 8.26 (日)	宮崎・東館ゼミ合同同窓会 (2003~2006年度卒業)
2007. 9. 1 (土)	大桑斉先生の古稀を祝う会
2007. 9. 6 (木)	第5回大谷大学育英学寮 (昭和30年4月入寮) 同期入寮者の集い
2007. 9. 9 (日)	直心行射会・OB総会・懇親会
2007. 9.14 (金)	石橋ゼミ同窓会 (2005年度卒業)
2007. 9.22 (土)	大谷大学混声合唱団OB・OG総会
2007. 9.23 (日)	幼児教育科7期生同窓会
2007.10. 7 (日)	2007年度大谷大学硬式野球部OB会総会
2007.10. 7 (日)	大谷大学貴練学寮第14期生同窓会
2007.10.14 (日)	2007年度茶道部後援会懇親会
2007.10.20 (土)	1982年卒業教育学分野同期会 (25周年)
2007.10.27 (土)	国文学卒業同期会
2007.11.10 (土)	昭和54年卒吉田晴男君をしのぶ会
2007.11.10 (土)	昭和61年入学スキー競技部同期会
2007.11.10 (土)	短仏平成4年同期会 (1-C)
2007.11.17 (土)	第32回谷雪会総会 (スキー競技部OB・OG総会)
2007.11.24 (土)	笑いの学校 落語研究会OB・OG会
2007.12.21 (金)	大谷大学自動二輪同好会 第4回OB・OG会
2008. 1. 8 (火)	大谷大学剣道部講武会
2008. 1.13 (日)	平成4年度自灯学寮同期会
2008. 1.18 (金)	加治ゼミ同窓会 (2005・2006年度卒業)
2008. 1.19 (土)	大谷大学書道部創立40周年記念祝賀会



加治ゼミ同窓会 (2005・2006年度卒業) (2008.1.18)  
思い出話を語り合っていると昔のことが思い出され、懐かしい気持ちになりました。楽しい一時を過ごすことができて良かったです。



平成4年度自灯学寮同期会 (2008.1.13)  
卒業後10年の時の重さを感じつつ、共に学んだ友との絆に励まされた1日でした。



大谷大学剣道部講武会 (2008.1.8)  
昨年1月に亡くなられた安立前師範の追弔会をお勤めました。その後、現役との合同稽古会ならびに懇親会を開きました。

『無盡燈』への  
広告掲載募集!

機関紙『無盡燈』(同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会)報告ページ)に広告を掲載することができます。

同窓の皆さまが、現在お務めの企業広告や名刺広告の掲載にご協力いただきますようお願い申し上げます。

広告掲載料金・申込方法は次のとおりです。

- ・ 全一段(タテ六cm×ヨコ一八cm) 一〇〇、〇〇〇円
- ・ 1/2 段(タテ六cm×ヨコ八・九cm) 五〇、〇〇〇円
- ・ 1/4 段(タテ六cm×ヨコ四・四cm) 二五、〇〇〇円

申し込みは、電話、FAXまたはEメールで「大谷大学校友センター」まで申し出ください。

TEL O七五・四一一・八一二四  
FAX O七五・四一一・八一五七  
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

# 通信



「♪無理して飲んじゃいけないと、肩をやさしく抱きよせた……」昭和五十四年の紅白歌合戦は、苦節十五年を乗り越えやっと演歌歌手として陽のさした小林幸子の「おもいで酒」で持ちきりだった。音楽大好き少年であった私は、希有な「出逢い」の運命を歩む。入学した中学校が吹奏楽の名門、全校大会金賞受賞十五回を誇る今津中学校。そこでフルートをみっちりしごかれ、音楽の虜となる。勉強はそつちのけで作曲法を学んだおつりは、落ちこぼれ。

そして紆余曲折、大谷大学の門をくぐる。一番苦手の教科は「真宗学」。月曜の朝は憂鬱の種だった。そんな一回生の時、指揮者宇宿允人氏に演奏が認められ、ヴェイエル室内合奏団（現：関西フィル）の主席となる。また、座興で作曲した演

## 「ありがとう我が母校」

梅谷 忠洋

（一九七四年文学部社会学科卒業）

歌「おもいで酒」が大ヒットし、大天狗となるも束の間、生意気な若造を甘やかすほど演歌業界は甘くはなかった。そんな折、縁あってNHKのディスクジョッキーに抜擢される。しかし、番組改編期の恐怖に苛まれ、しばし心身症気味。しかし、「天」は著作権料で我が生活を金銭的に援助してくれるも、希望のない、いらだちが毎日を襲う。不安と将来の恐怖に「死」を考えるが、何か訳のわからない体内エネルギーによって死ねず。苦しみ抜いたある日、書棚に眠る『歎異抄』が目にとまり「他力」の存在を知る。自分の半生を内観により振り返ると、「南無阿弥陀仏」すごい力で生かされていたことを実感。これを機に、不思議な勇気と力がおなかの底より湧いてきて、この他力の存在を自分同様苦しむ人に伝えるべく研究。そして、人間の恐るべき潜在能力に気づく。今、多くの人に「成功方程式」とも言うべき人生の心構えを伝えていくが、それは全て親鸞聖人の教えと合致する。大谷大学に在学していなければと考えると背筋が凍る。

ありがとう我が母校。

（M&Uスクール学長・作曲家）

## 敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。  
（一）内は最終卒業・修年（敬称略）  
※同窓会本部掌握分

- 矢森 陸夫 文学部（一九七三） 二〇〇五・四・二二
- 河野 義海 文学部（一九五二） 二〇〇五・七・二四
- 丹下千鶴美 短期（一九七二） 二〇〇六・六・二二
- 加藤 俊子 文学部（一九七七） 二〇〇六・六・三二
- 桑原 誠 文学部（一九五六） 二〇〇六・二・一七
- 西埜やよい 文学部（一九七三） 二〇〇六・二・一
- 大鳥 順子 文学部（一九七九） 二〇〇七・二・五
- 濱 丈晴 文学部（一九九三） 二〇〇七・三・四
- 堀前 恵成 文学部（一九四七） 二〇〇七・四・八

## 結婚

おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申しあげます。  
（一）内は最終卒業・修年（敬称略）  
※同窓会本部掌握分

- 月輪 兼章（二〇〇三） ● 西村 麻里
- 高月 賢志（二〇〇二） ● 小代 縁子
- 小橋 一太（一九九六） ● 濱本亜裕美
- 亥子佳津文（二〇〇〇） ● 堀田耶史世（二〇〇二）
- 川瀬 滋（二〇〇七） ● 小柴 茜（二〇〇七）
- 立田 光識 ● 橋 裕子（二〇〇二）
- 阪口 純一 ● 安原みどり（二〇〇三）
- 鳥毛 浄生（二〇〇五） ● 山内 祥恵
- 伊藤 了（二〇〇七） ● 池田 有見
- 野澤 弘篤（一九九六） ● 西垣友美子（一九九六）
- 加藤 史峰（一九九五） ● 内海 雅絵
- 林 芳幸 ● 北田とも子（一九九六）
- 坂井伸与幸 ● 早瀬 真実（二〇〇三）
- 神鳥 成規 ● 村野 幸子（二〇〇〇）
- 四元 隼也 ● 丸山 香織（一九九六）
- 北野 剛史（一九七五） ● 野村 礼子
- 小柳 俊輔（二〇〇五） ● 谷口 美礼（二〇〇七）
- 蓮沼 乗行（二〇〇四） ● 織田佳奈子（二〇〇二）



# 窓

# 同

## 「のぞき趣味」

小林 ゆり

(二〇〇〇年文学部哲学科卒業)

さまざまな過去を背負った人々がうごめき、ぶつかり、殺し合い、生かしあう「ものがたり」を書きたい、と思っていた。大学に入る直前、ワープロを買った。学生時代、ワープロは一度も開かなかった。その代わり、親の仕送りを食いつぶしながら、ちまたにあふれかえる大学生と同じような内なる闇……性欲、食欲、睡眠欲、なぜイキル、なぜ死ぬ、ゴミだめのようなプライドの高さ、背中あわせの小心さ、男が欲しい、きれいになりたい、さびしい、男が欲しい!……などなど。そんなブラックホールを延々とのぞき込むような、あまり行動の伴わない、内なる戦いを一人、くりひろげていた。



ただ大学当時から、無意識、もしくは作画的に「ものがたり」になるネタを探していた節はあった。「ものがたり」に必要なのは、光よりも闇。闇の中でかすかに輝きを放つ、力強い宝石。ウジウジ悩むかたわら、視野はすこしずつ外へ向かい、日夜原石を探し歩くようになった。ハンバーガーチェーンでアルバイトをするよりは、場末のスナックで六十過ぎの同僚と共に、ママの昔語りを聞き、怪しげな客に水割りを作った。ご両親に大切に育てられたいい子よりも、風俗まがいの仕事で自ら学費を稼ぐ子と友達になった。ストリップ劇場へ行き、かぶりつきで舞台を観たこともある。

それもこれもすべてはネタのため、というの上から見下ろしているようで、なんだか違う。むしろ私は、うっすらと闇をまとう人々に惹かれていた、と言ったほうがしっくりくる。

世間を逆走するような探索は現在も続いている。「ものがたり」を書くために暗い場所を目指すのか、「ものがたり」を言い訳にして、他人の窪をのぞきたいのか。その境界は曖昧である。

(第十九回太宰治賞受賞)

堀	義雄	大専門(二九三)	二〇〇七・五・五
本多	千三	大学部(二九四)	二〇〇七・五・〇
柳山	淳	大学部(二九八)	二〇〇七・五・〇
安藤	広志	文学部(二九三)	二〇〇七・六・七
佐藤	幸	大予科(二九八)	二〇〇七・六・二
清野	真澄	文学部(二九五)	二〇〇七・六・五
安間	誓	文学部(二九二)	二〇〇七・六・八
多田	英章	文学部(二九七)	二〇〇七・六・八
寛	惠隼	大専門(二九二)	二〇〇七・七・一
谷尾	勝故	大専門(二九二)	二〇〇七・七・一
松原	惇	文学部(二九五)	二〇〇七・七・五
伊達	正夫	大専門(二九四)	二〇〇七・七・三
佐治	孝彰	大学部(二九五)	二〇〇七・八・二
尺一	顕正	大専門(二九八)	二〇〇七・八・二
山雄	彰洋	短期(二九五)	二〇〇七・八・七
本井	信雄	大学部(二九五)	二〇〇七・九・一
齊藤	専一	文学部(二九三)	二〇〇七・九・五
華蔵閣	行亮	大学部(二九八)	二〇〇七・九・六
南	かおり	短期(二九七)	二〇〇七・九・三
櫻井	智浩	博士(二〇〇)	二〇〇七・九・四
野村	龍温	大専門(二九四)	二〇〇七・九・四
岡田	聖隆	短期(二九六)	二〇〇七・九・六
藤井	新	大学部(二九四)	二〇〇七・一〇・三
大橋	昊瑞	大学部(二九四)	二〇〇七・一〇・九
村上	信男	大予科(二九五)	二〇〇七・一〇・〇
細川	行信	大学部(二九八)	二〇〇七・一〇・四
深田	英雄	大学部(二九八)	二〇〇七・一〇・七
佐々木	鐵牛	大学部(二九八)	二〇〇七・一〇・七
藤枝	弘文	文学部(二九六)	二〇〇七・一一・四
宮部	幸麿	大学部(二九四)	二〇〇八・一一・〇

### お詫びと訂正

本誌前号において、表記に誤りがありましたのでお詫び申しあげ、次のとおり訂正いたします。

「敬事」

(誤) 石塚 祐堂 文学部(一九九六)

(正) 斎藤 雅 文学部(一九六四)

「立ち止まろう」

どうして、こんなことになってしまったのだろうか。

現代の世相を見ると、こんな思いが起こってくる。

親が子どもを殺し、子どもが親を殺す。また、気持がむしゃくしゃするので、誰でもいいから殺したかったといって、人を傷つけ殺していく。

このように人をいとも簡単に殺していく。そこには、何か狂気のようなものが、うずまいていような感じがする。もちろん狂気というような言葉で、このことを理解することには問題があるだろう。なぜなら、親鸞は、すでに「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」と教えているではないか。だから、それは狂気ではなく、人間の偽らざる本性であるということなのだろうか。いやそうではないだろう。

ドストエーフスキーは、『罪と罰』という小説の中で、金貸しの老婆を、シラミやアブラムシの値打ちさえもない存在であると考えて殺害したラスコーリニコフが、監獄のなかで見た夢のことを、次のように描いている。それは、寓話的ともいえる話なのだが、アジアの奥地からヨ

ロッパへかけて一種の恐ろしい、かつて聞いたことも見たこともないような伝染病が蔓延したというのである。それは人間の肉体に食いつく一種の新しい微生物、織毛虫によって発病するという。不思議なことに、この病にかかったものは、今までもとにもさきにも、自分以上に賢い、不動の真理を把握したものはいないと考えるのである。そして、正気を失い、わけのわからない憎悪にとらわれて、お互いに殺し合っていくというのである。

この寓話に象徴される具体的な出来事は、「正義」の名のもとで、前世紀には戦争や大量虐殺などで一億人にもほる人々が殺されていったと言われていることである。

だから、自分を正しいと考えるかぎり、正しくないのは自分以外の他者ということになる。そして、自分の正しさの証明は、正しくない他者を否定することだと考えるから、そのことの極端が他者を殺すということになるのだろう。

さて、私たちは、どれほど賢く正しいものであるといえるのだろうか。今一度、立ち止まって問い直す必要があるのではないだろうか。

大谷大学教授・真宗学

中川 皓三郎

表紙絵

「ネパールの春」

45.5 × 33.3 cm 二〇〇八年作

ネパールはインドと中国という大国の間にある小国である。北側はヒマラヤ山脈で区切られ、南側はタライ平原がインドと接している。タライ平原地帯は古くからインドと混合していてルンビニなど仏跡がある。ネパールの歴史、宗教、美術、建築の中心はカトマンドゥ盆地のカトマンドゥ、バタン、バクタプールとキルティプールの集中している。カトマンドゥ盆地での歴史は古代碑文により多くの事実が解明できるが、最も古いのは、五世紀中葉のものでカトマンドゥの東南にあるヴシユヌ神のヒンドゥ寺院チャングナラヤンにある。

インドでの仏教は五世紀以降のヒンドゥ教化、即ち密教化することによる変容とそれに伴う弱体化、十世紀以降の強烈なイスラムの侵攻により十三世紀の前半までには完全に消滅してしまうが、山深いカトマンドゥ盆地ではそのインドの後期仏教、即ち密教がヒンドゥ教と共に現在に至るまで続いている。脈々と続く仏教の儀礼は興味深くその儀礼はバジュラチャリヤ階層の在家仏教徒によって執り行われている。そういった意味でもカトマンドゥ盆地は大変に興味深い。大乘仏教を学ぶ上でも益々の調査、研究が望まれる。

私は三十四年前に初めてそこを訪れてから、時折り喧騒のインドを離れ、ネパール美術を調査したり、写生をしたりする日々を過ごした。カトマンドゥ盆地の西南の丘にある私の好きなキルティプールは当時訪れる観光客もなく、食事をするところも無かった。古い建築物ばかりの村で各戸ごとに手織りの機音が響いていた。キルティプールの周辺は緩やかな丘陵地帯で、今でも春には菜の花そっくりなマスタードの黄色の花が咲き乱れ、その香りが世界を覆うが如く、まさに桃源郷のようなところで、その中の畑の小径を通り、次々と村々を歩いたことは、今でも至上の喜びであったと思える。人間の持つ五感でその場の全てを体内に吸収することは大切なことのように思えてならない。

畠中光享（一九七〇年文学部卒）

京都造形芸術大学教授

大谷大学非常勤講師

2008年3月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部

編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内

電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157

振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。譬やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることはない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。